受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成23年度
農林水産大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野
受賞

受賞者名

JB 環境ネットワーク会

所在地

埼玉県さいたま市

受賞テーマ

JB 環境ネットワーク会による
「飲料空容器の循環型産業構築」と「3Ｒ普及啓発活動（環境学習支援）」

1. 活動継続 あり

2016 年度の飲料空容器の再資源化の実績として「リサイクル・プラザＪＢ」での処理量は、7,218ｔとなっている。

2. 活動の広がり あり

「美しい沖縄・美しい地球・美しい未来への架け橋」をテーマに毎年沖縄でシンポジウムを開催している。2017 年度までに 9 回開催した。学校・行政・一般参加者をお招きし、環境保全活動の発表を行っていただいている。

3. 活動の進化 あり

3R 普及啓発活動として、リサイクル・プラザＪＢを見学した小学生を対象とした「ぼくとわたしのリサイクル作文コンクール」を開催。2017 年度で 7 回目の開催となる。

4. 今後の計画

紙製容器のリサイクルについて、まだマテリアルリサイクルができていない地域があるので、広げていけるよう取組んでいく。

【表彰概要】

同会は、販売された後の飲料空容器包装の適正処理やリサイクル処理について、企業の垣根を超えて飲料事業者 18 社の会員企業が連携し、資源循環の推進に向け取り組む任意団体である。

1999 年に資源循環の推進に向け取り組みを開始し、2003 年 5 月には、資源循環の推進活動の中核施設として、飲料業界初の飲料空容器再資源化施設「リサイクル・プラザ JB」（埼玉県さいたま市）を設立した。現在、年間処理量は、8,410 トン、再資源化量は 7,515 トン（2010 年度）となり、容器包装リサイクルの成果をあげている。

リサイクル・プラザ JB では、会員企業の 1 社であるジャパンビバレッジの自動販売機で販売した後に発生する飲料空容器「缶・ビン・ペットボトル」のリサイクルを日々行っている。空缶のリサイクルは、プレス加工が一般的だが、同会の処理は缶を粒状のペレットに再生加工している。このペレット化の特徴は、純度の高い再生加工品の製造が可能ということである。アルミでは純度が約 96%以上、スチールが約 99%と再生品とは思えない高い純度を保っている。

また、全国での飲料空容器包装のリサイクルおよび適正処理を行うために、約 180 社の廃棄物処理業者、リサイクル企業等で「JB リサイクルネットワーク」を構成し、各地域の企業と連携しながら全国規模で 3R を通じた資源循環を行っている。

普及・啓発活動

リサイクル・プラザ JB 設立時より、工場見学の受け入れを積極的に行っている。実際に飲料空容器のリサイクルを見学する場を提供し、一般・学校・企業・自治体が参加している。また、2009 年度より夏休み期間に実施する埼玉県主催の「スタンプラリー」に参加し、小学生を中心に、楽しくリサイクルについて学べるよう取り組んでいる。

見学風景

環境学習室

2007 年 2 月より埼玉県　温暖化対策課が主催する小中学生を対象とした「環境出前授業」に参加。各学校に出向き、「飲料空容器のリサイクル」として、分別の大切さや、リサイクルの意義等について授業を行っている。

また、これまでに 4 回のシンポジウムを開催している。同会の活動の取組を発表し、外部有識者や関係省庁の講演を実施するなど、広く情報公開ならびに情報共有をおこなっている。